

### 【スペイン語 地中海への扉】

日本では地中海の文化もスペインもほとんど知られていません。見当違いな誤解はされているようですけれど。これはわが国の独特な近代化と無縁ではありません。独特な近代化とは何かと言えば、それはヨーロッパの長い歴史の中から日本が近代化を決意した 19 世紀後半のみに支配的だった潮流だけを学び、うわべだけこれに同化して、一刻も早く先進国の仲間入りをしようとしたという意味です。そのとき見落されたものはいくつもありますが地中海文化はそのひとつです。

この文化は一言で言えば「ゆとりの文化」です。急速に近代化をしなくてはならなかった途上国（日本）にはこのような文化は無用のものでしたし、またそのようなものを視野に入れるゆとりもなかったのです。スペインの哲学者オルテガによればこの南の文化は「人間の理想とは樹木であり、汗水を流すことなく、ほとんどすべてのものを大地、太陽、風が与えてくれる豊かな大地のみに許されるぜいたくな文化」ということになります。この文化ではミュージカルでなくオペラが、ハンバーガーのようなファースト・フードでなくコース料理が、コーラでなくオルチャータ（アーモンド飲料）が、まぜもののカクテルではなくワインが、集団でなく個人が、仕事でなく休暇が、スピードでなくのどかさが、銀行家や起業家より芸術家や詩人がはるかに尊ばれます。ある北欧の学者は「地球上をことごとくアメリカ文化がおおいつくそうとしても唯一地中海文化だけはこれに対抗しうるだろう」と述べていますが一端の真実をついでいるでしょう。

スペイン語にはこのような地中海文化が鏡のよ

うにくっきりと映しとられています。スペイン語はわが国の文化が長らく見すごしつづけていた地中海文化への扉となります。またもちろん、ヨーロッパの歴史上の大国、先進国のうちで、日本で最も知られていない国スペインを知る扉ともなります。ルネサンス、バロックの時代に世界に君臨し、いまなおその光輝を失わない国であることを知るでしょう。扉を開けば、地中海の風が吹きこみ、スペインの光に出会えます。そしてまた広大なラテン・アメリカへの扉ともなります。

### 【5 億人、21 か国、国際語】

ローマ帝国のことばラテン語に起源をもつスペイン語は、現在では 4 つの大陸であわせて 21 の国と地域、5 億人の母語です。この言語を習得すれば 21 か国語を習得するのに等しいわけです。国連、欧州連合の公用語でもある国際語です。最近では欧州連合の国々だけでなく、スペインとの経済的結びつきが強くなっている東欧諸国でもスペイン語を学ぶ人たちが増えつづけています。ヨーロッパでスペイン語を学ぶ人たちが多いのは、スペインが長らく他の国々の憧れの地であったためもあるでしょう。19 世紀、特にロマン主義の時代に、スペインは各国の文学者たちに靈感を与え、バイロンやアンデルセンを初めとする多くの「北の人たち」が地中海のほとりのこの国を訪れ、素晴らしい詩や紀行文を書き、今日なおつづくヨーロッパ人のスペインへの憧れをかきたてました。イギリス人やドイツ人は隠退したら、あるいはできれば今すぐにでも、スペインで暮らすのが夢なのです。彼らの理想の生活は、日本人が憧れる「英国式」でも「ドイツ流」でもなく、「地中海風」もしくは「スペイン風」の暮らしなのです。それは彼らにまじってスペインで休暇を過ごせば、すぐわかることです。ヨーロッパで「英国式」や「ドイツ風」といえば、「実用本位」とか「質実剛健」

を意味し、日本で考えている「オシャレ」とか「エレガンス」とはほど遠いものです。

スペイン語はあらゆる肌の色、さまざまな国籍の人々がコミュニケーションに使う国際語です。英語だけが国際語ではありません。英語というチャンネルだけで出会える世界は決してそれほど広いものではありません。日本で日本人が素朴に信じている、あるいは信じこまされているほど英語はどこでも通じる便利なことばではありません。ヨーロッパ（大陸）に住んでいるアメリカ人の方が日本人よりはるかに英語が通じないことを、つまり英語の限界を実感しています。特にスペインやイタリアのような地中海の国々ではまず通じないと思った方がよいでしょう。「ここに来るならば私たちのことばを憶えなさい」というのが彼ら地中海人の発想です。「国際化」や「国際人」を語るなら、英語だけでなく、少なくともあとひとつくらいは他の文化圏の言語を習得するのは必要なことです。思いがけない視野が開けてきます。地中海もくっきり見えるでしょう。

### 【教室をこえて】

大学で学んだことは社会に出て役に立つかというのはしばしば耳にする議論です。外国語は間違いなく役に立ちます。マドリッドやバルセロナで出会う日本人（外交官、企業の駐在員、自営業者、建築家など）は、その多くが大学で何らかの形でスペイン語を学んだ人たちです。彼らは毎日を大学で学んだことを役に立てて生きています。ラテン・アメリカの各地にはさらにそういう人たちが数多くいるでしょうし、スペイン語で学んだ上で他の言語へさらなる飛躍をしていく人も少なからずいるでしょう。もちろん日本国内でもスペイン語を使う場面はあります。これから皆さんが学ぼうとすることは教室だけで終わらないはずですよ。

スペイン語 I では、発音、文法、会話、翻訳の

基礎を学びます。II では、これを発展させ、上級スペイン語の終わるころには、人によってはIIの終了するころでも、スペイン語の新聞、雑誌は読めるようになるはずですよ。図書館にはスペインの新聞が入っています。挑戦してみてください。インターネット上でも読めます。また政治、経済、社会、文化についてのアカデミックな文章も本人の文化や教養次第で読みこなせるはずですよ。スペインや中南米の文学者たちは、セルバンテスからボルヘスやガルシア＝マルケスまで、我が国の作家たちとは異なって、読んで理解されるための平易な文章を書きますから、彼らの作品を読むこともできましょう。

最後にバリエッホ・ナヘラという著名な学者がスペイン語を学ぶ外国人（つまりわれわれです）に送ったメッセージを引いておきます。「スペイン語は決して習得するのにやさしい言語ではないが習得したときに大きな喜びを与えてくれる数少ない言語のひとつである。」スペイン語を本気で学びたい学生を募ります。新入生向けの授業は週二回で2クラス、80人程度の募集となります。適当にやっただけで単位を取りたいという学生にはまったく不向きですよ。

なお2019年のセルバンテス文化センターのレポートによると、国際語としてのスペイン語は相対的に増加傾向にあります。母語話者は中国語に次ぐ4億8千万人で、全世界では学習者の数も2千万人以上と考えられています。母語、第二言語、外国語としては5億8千万を超える人々によって話され、規模では中国語、英語に次ぐ言語となっています。